

平成22年度 第1回理事会議事録

平成22年7月21日(水) 19:00～23:00 於:県士会事務所

出席者:上遠野純子、畑中一枝、道又顕、鈴木ひろみ、鈴木真紀、半沢正道、渡邊由香里、久保田美代子、原田勝行、監事佐藤善久、大黒一司東北学会 学会長

理事9名/15名 監事1名 他1名

欠席者:本地光弘、大貫操、佐久間聡子、本多ふく代、吉崎勝哉、葛西康(委任状有)、監事高橋由美

【審議事項】

1) 第22回東北作業療法学会について

大黒学会長より、8月3日より実行委員会を開催すること、概要(テーマ、会期・会場、プレコンGRESセミナー、参加費等)に関する資料が作成済みである旨報告された。

- ・**参加費**:参加者数により左右されるが、振込みの場合は参加者がスムーズに支払えるよう、コンビニでの支払いシステム利用等、今後検討を重ねていくこととなった。
また、参加者枠の中に非会員を設けるかどうかについて議論され、組織率向上のためにも非会員枠はなくし、非会員の方の参加希望時に各県士会入会を促していくこととなった。さらに、東北六県以外からの参加者の費用については、法人化により収益面の配慮が必要なことから、上遠野会長が協会・都道府県合同役職者研修会にて確認することとなった。
- ・**プレコンGRESセミナー**:生涯教育ポイントの発生や運営費用に関する議論がなされた。理事会としては、現職者共通研修または県士会主催研修会として開催し、実働に関しては東北学会担当者が中心になる形で了承され、今後、詳細について検討していくこととなった。
- ・**予算**:県士会からの借入金記載の必要性に関して、また記載必要時の方法について議論された。借入金の扱い方にもよるが、今後理事会で検討し、実行委員会に対し県士会としての考えを提示していくこととなった。また、大黒学会長より、県士会の財政面から考えて借入金が発生、運用しても問題がないのかという質問が出され、運用面からも出納帳上の扱いとしても問題がないことが確認された。

2) 委託事業関連について

- ・**仙台市テクノエイド人材養成委託事業**:承認された。費用の面からも作業療法啓蒙の面からもメリットの多い事業であるとの意見が多く出された。その点からも、今後、全県士会員に広報していくことの重要性が指摘され、その方法については事業局長を中心に検討していくこととなった。また、今年度の実働に関しては内諾を受けている旨報告された。
- ・**宮城県 通所介護サービス事業所への PT・OT 支援モデル事業**:今年度の派遣が始まっている旨、報告された。今後、外部からの事業委託があった場合、実働として問題や事故が発生した際等のためには、理事会として承認するだけで良いのか、窓口となる担当理事を設けるべきではないかとの意見が出された。それに対し、事業部より、OT 活動推進班が新たに設けられ係分担も行われていることが報告され、今後、推進班中心に動いていくことで承認された。

3) リーダー養成研修会開催について

- ・**東北・北海道地区作業療法士会 リーダー養成研修会開催**:参加者の推薦について議論された。県士会の今年度予算が決定している中で各士会負担金が求められている反面、各士会への推薦依頼者数や補助金にばらつきが生じている研修会に、理事会として参加者を推薦して良いのかといっ

た意見が出された。協会・都道府県合同役職者研修会にて、複数会場での開催により負担金の軽減を図る案を上遠野会長より提示することとなった。

- ・全国訪問リハビリテーション振興会「訪問リハビリテーション地域リーダー育成研修会」参加者推薦：管理者研修会 STEP1 修了者 2 名が報告され、推薦基準についての議論がなされた。施設ごとのリーダーということはもちろん、県士会レベルでもリーダーの役割を担えるためのバックアップをどうするか、主催者の意図は明確になっているのか、といった意見が出された。今後、先述の 2 名を推薦できるかどうかの確認と共に、県士会内での研修会等開催に向け、会長指示の元、理事からも参加していくこととなった。

4) 研究助成金事業について

学術部より、今年度は締め切り、応募がなかったことが報告され、今年度は対象者なしということにするか、募集期間延長とするかについて議論された。それに対し、応募がなかった背景について話し合われ、助成対象について『研究』に対するもののみとの誤解が生じている可能性があり、『実践』に当たるものの公募がないのではないかと指摘された。今後、よりアカデミックな県士会となっていくためにも、広報内容と方法を検討していくこととなった。

5) レクリエーション企画について

福祉部より、10～11 月頃の土日にボーリング大会を企画していることが報告された。参加者について、一般公募と共に、各ブロック長に加えブロック長からの推薦者数名の参加を促していくこととなった。

6) 年度途中の入退会者に関する取り扱いについて

事務局より、現行では都道府県連絡協議会での申し合わせ内容に則り、「他県に異動または他県からの異動の場合はどちらかの士会への年会費納入のみで良い」との扱いで対応していたことが報告された。しかし、各士会によって先述の申し合わせ履行が不統一であることから、県士会としての対応意見を取りまとめ、都道府県連絡協議会に提出していくことが提案された。申し合わせの履行に関しては各士会に一任されていることが確認され、士会間の会費の差をどのように扱っていくか、退会証明書の発行は必要ではないのかといった意見が出された。会費の差に関しては、会費の大小双方向への入退会がある面から現行通りの対応、退会証明書に関しては前士会の会員証の提示で良いのではという意見が出された。今後、県士会として手続き体制を引き続き整備し、都道府県連絡協議会にて、現行の申し合わせ通りでの会費支払いを提案していくこととなった。

7) 名義後援関連：下記の各事業・研修会について回答済みである旨報告され、承認された。

- ・SKY（仙台介護予防）大作戦（主催：仙台市）
会期：平成 22 年 7 月 4 日（日） 会場：仙台市シルバーセンター
- ・第 11 回宮城県リハビリテーション医療研究会（主催：宮城県リハビリテーション医療研究会）
会期：平成 22 年 7 月 15 日（木） 会場：民陵会館
- ・第 25 回リハ工学カンファレンス（主催：第 25 回リハ工学カンファレンス実行委員会）
会期：平成 22 年 8 月 26 日（木）～28 日（土） 会場：仙台市情報・産業プラザ（アエル 5・6F）
- ・日本デイケア学会第 15 回年次大会（主催：日本デイケア学会）
会期：平成 22 年 9 月 16 日（木）～19 日（日） 会場：江陽グランドホテル、他
- ・認知症の人と家族への援助をすすめる 第 26 回全国研究集会（主催：社団法人認知症の人と家族の会）
会期：平成 22 年 11 月 14 日（日） 会場：仙台市民会館大ホール

8) 次年度定期総会日について

役員選挙公示日とも関連することから、例年よりも早めの開催が提案され、5月22日(日)に開催することとなった。既に承認されている第13回宮城県作業療学会の同時開催については、テーマなど概要の起案を上遠野会長中心にまとめ、学会長も担っていくこととなった。そして、今後改めて話し合いの場を設けることも視野に具体的内容について検討していくこととなった。

9) 各部署からの報告

上遠野会長：今年度主要目標についての具体的行動目標について報告された。

事務局：中央法規出版株式会社からの書籍斡旋依頼を見送ったこと、全国学会より備品寄贈があること、第8回協会・都道府県合同役職者研修会に上遠野会長・道又常任理事が参加することが報告された。

庶務部：8月定期発送時の対応に関すること、費用面の見直しのため今年度試行的に1回/6回の定期発送を外注としていること、ボランティア保険加入作業を進めていること、協会会員番号との整合性を持たせた会員名簿を作成していることが報告された。

財務部：8月21日ㄨで今年度上半期決算・補正予算を取りまとめることが確認された。

広報部：7月31日開催の「みやぎ OT・PT・ST 合同就職説明会」にて、リハビリテーション情報提供コーナーにて広報部が、普及啓発セミナーにて畑中事務局長が対応していくことが報告された。また、県士会パンフレットについて、H23.1月発行号のニュースをパンフレット形式にし、H23.2月頃までの完成を目指していることが報告された。

HP 契約に関しては、現状での問題点(業者の更新にタイムラグがある、形式が複雑なことにより体裁の更新が煩雑)が指摘され、一般向け・会員向けに内容を分けることも視野に入れ、現行のHPと広報部管理のサイトの棲み分けを検討していることが報告された。このことに関しては担当者交代時の引継ぎも考慮し、事業部とも連携しながら今後検討していくこととなった。

事業部：9月に写真展開催予定(協会から費用補助あり)であること、10月または11月に精神班の活動として認知症の方の家族教室を開催すること、部としてTシャツを作ることが報告された。

学術部：学術誌の進捗状況について報告された。

教育部：各研修会を検討中である旨報告された。

次回開催予定 第2回常任理事会:平成22年9月15日(水) 県士会事務所にて
第2回理事会:平成22年10月20日(水) 県士会事務所にて